



竹原の魅力をPR！！

第20代だけはらかぐや姫決定

4月13日、第20代かぐや姫に就任した2人のかぐや姫が、市長を表敬訪問しました。

2人は、「竹原の魅力を積極的にPRしたい」という抱負を笑顔で語ってくれました。



畑野 圭子さん

土居 菜津香さん

第20代だけはらかぐや姫に就任したのは、市内在住で、作業療法士の畑野圭子さんと歯科助手の土居菜津香さん。これまでの赤い衣装を竹原のイメージカラーである緑色に替え、市長を表敬訪問しました。小坂市長が、

「これから市内外で、竹原の歴史・文化・自然などを頑張ってPRして、住みよいまち竹原市のイメージアップに貢献してください。」と激励の言葉を送ると、2人がかぐや姫としての抱負を語り、

「任期の2年間を通して、竹原のことを勉強して、みなさんに魅力を伝えたいです。」と抱負を話すのは、土居さん。「朝日山からの景色が気に入りで、時々登るんです。ランチ巡りも趣味で、市内にもランチに行くお店があります。今後、おすすめのお店やお店をPRしていきたいです。」と、話してくれました。今後、様々なイベントやメディアでの2人の活躍が期待されます。



4月19日、市役所で、今年秋に市が発行する予定の「竹原市暮らしのガイド（仮称）」の共同発行調印式が行われました。市と民間企業が協働して作成する暮らしのガイドは、市役所窓口での手続きのほかに、観光地・イベントなどの地域情報を掲載した市民のみなさんの生活に役立つガイドブックです。費用は広告収入で賄われ、秋には全世帯に無料配布する予定です。

窓口での手続きや地域情報を掲載！暮らしに便利なガイドブックを作成します



暮らしのガイドイメージ

作成に当たって、小坂市長は、「わかりやすい形で、まちづくりに関する情報をオープンにしたい。そして、市民のみなさんに喜ばれ、常に家庭に置いていただけるようなガイドブックを共につくっていきたい。」とコメント。また、この度、市と共同発行の調印を結んだ株式会社サイネックスの村田吉優社長は、「官民協働という発想は、新しい公共サービスを一つ一つにつけていく。行政と民間とが力を合わせれば思った以上のことができる。」と力強く語ります。「この手続きはどこで、どうやってするのか？」「竹原にはどんな施設やサービスがあるの？」などのみなさんの生活上のニーズに 대응するため、官民協働で今年秋の発行を目指します。

就職をサポート 就職ガイダンス開催

3月25日、たけはら美術館文化創造ホールで平成21年度第2回就職ガイダンスが開催され、85人が参加しました。参加者からは、「気になる事業所から直接話を聞くことができ、良かった」という感想を聞くことができました。



竹原の美酒を味わいながら

4月3日、中尾醸造で蔵開きが開催されました。会場では、酒蔵見学の他に、お酒を使った特産品の販売やきき酒などのイベントも行われ、多くの来場者で賑わいました。ふるまい酒には、みなさん、思わず満面の笑みでした。



春らんまん 桜まつり

4月4日、バンブー公園で桜まつりが開催され、多くの人がお花見やイベントを楽しもうと来場しました。当日は天候にも恵まれ、メインの桜も美しく花開いていました。中には、桜の下でくつろぎながら、1日を過ごす人も。



おっ この植木いいね～

4月17日から19日までの間、忠海で宮床まつりが開催されました。恒例の植木市は、今年も多くの人でにぎわい、元気のいい植木を見定めている人々の姿も見られました。また、色とりどりの花を見て微笑む人も。来年も楽しみです。



子どもたちが和楽器でチャリティ

4月3日、杏竹館で若竹会後援会チャリティコンサートが開催されました。このコンサートは、障害者福祉サービスを行う社会福祉法人若竹会の後援会が障害者を支援するために開いたもの。当日は、忠海西小学校6年生の山本夏子さんを含め、全国から^{そうきやく}箏曲コンクールなどでの入賞経験をもつ中学生や高校生が集まり、箏や三味線などを演奏しました。

コンクールをきっかけに友達になったという5人。「リーデンローズじゃんけんぽん」というグループ名で、今後も演奏活動を行っていくそうです。



竹原の町並みとアートがコラボ

4月10日から18日までの間、町並み保存地区一帯と忠海のカフェホクストンを会場に、たけはら国際アート展が開催されました。

会場では、今回、多くの作品を出展したスペインの芸術家マルタ・モンカードさんが、来場者に作品について説明する姿も見られました。また、作品を前に芸術ファンが「ここが素晴らしいね」と感想を語り合う姿も印象的でした。

今回、初めて開催されたたけはら国際アート展。国際的な芸術文化で町並み保存地区が華やいていました。